

うべ若者サポートステーションの活動報告 ～相談者の傾向について～

藤本尚之

NPO法人ふらっとコミュニティ
うべ若者サポートステーション

諸言

厚生労働省は2007年に、ニートから抜け出せない若者の就労支援のために地域若者サポートステーション事業を開始した。本事業は就労に悩みを抱える15～39歳までの若者を対象に、キャリアコンサルタント、コミュニケーション訓練等のステップアップにつながる事業を行い、さらに、協力企業での就労体験等の支援を行うものである。

うべ若者サポートステーション（以後、うべサポステ）の地域における活動としては、(1) 行政機関、団体等との就労に向けたネットワーク会議、(2) 障害へ対応する地域での共生を目指した活動、(3) 自己肯定感につながることを目的とした「若者ほっとスペース」の企画などを行っている。

うべ若者サポートステーションにおける相談者の問題

うべサポステ利用者の多くは、何らかの障害や、生活、家庭、学校、社会等に問題を抱えている。うべサポステの相談者は、他の機関で相談を受けたものの、必要な支援を受けることができず、そうした経験による不満や疲弊から支援者へ陰性感情を抱いているケースが多い。また、他者に助けを求める事ができず、自宅にこもっている状況の人もある。

結語

相談に来所する多くの若者は、社会での生活に適応できず苦しんでいる。しかしながら、利用者が抱えている問題は、単純に社会の問題だけでなく、家庭内での問題もあり、そうした状況から自分の居場所がない状況があるように思える。サポステの役割は就労支援に加え、家庭内でも安心できる環境づくりをサポートしていく必要があるように思われる。